

中北部に銀輪の風

2千人新春の快走

第5回美ら島オキナワセンチュリーラン2014（主催・同実行委員会、協力・沖縄タイムス社など）が19日、恩納村コミュニティセンターを発着点に開かれ、国内外から過去最多の2005人がセンチュリー（160キロ）、古宇利島・桜（100キロ）、スイーツ（60キロ）の3コースにエントリ、新春の中北部を自転車車で満喫した。

那覇市の奥間敦彦さん「楽しみながら完走した」と（24）はセンチュリー初参加で「一緒に走った真外の人たちと友達になり、会話を満足。」

兵庫県の有川裕之さん（54）はチーム9人で100

キロに参加、海岸線沿いを走り、咲き始めた桜も楽しみ「古宇利大橋から見たエメラルドグリーンのが印象に残る」と来年もチームで参加する考え。

名護市の砂川由香利さん（34）は友人で恩納村の楠本寛子さん（34）と60キロに参加。コース途中で地元特産品を使った菓子が用意され、「カフーリゾート」恩納村のロールケーキがおいしくて疲れが癒やされた」と声を弾ませた。

参加者最高齢で大会連続出場の石沢弘文さん（81）那覇市は100キロに出場。「参加者同士の触れ合いや車で味わえない景色が自転車で楽しめる」と魅力を語った。

今回、センチュリー全参加者が初めて名護市呉我橋から嵐山展望台まで約2・3キロのタイムレースに挑戦。標高差80メートルの区間で、男子はつるま市の金城伸也さん（45）が6分19秒02、女子は宜野湾市の定免梢さん（32）が6分46秒で優勝した。



海からの冷たい強風に耐えながら走り抜ける参加者＝名護市喜瀬（伊藤桃子撮影）

（24）はセンチュリー初参加で「一緒に走った真外の人たちと友達になり、会話を満足。」



爽快
海の絶景を眺めながらさっそうと走る＝つるま市与那城・海中道路（伊藤桃子撮影）



坂道
古宇利大橋を背に急な坂道を一気に駆け上がる＝名護市・屋我地島（我喜屋あかね撮影）

絶景背にペダル軽く

田芋の収穫が行われる田園を軽やかに走る＝金武町金武（我喜屋あかね撮影）



舌鼓
「おいし～い！」ロールケーキや紅イモタルトのスイーツに舌鼓＝恩納村・カフーリゾートフチャクコンドホテル（伊藤桃子撮影）



氣勢

スタートを前にガンパロー三唱で完走を誓う参加者＝恩納村コミュニティセンター（我喜屋あかね撮影）